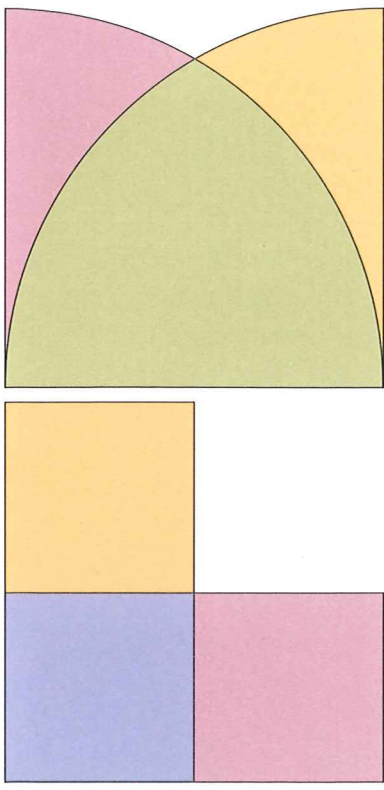


ミュージアム・レター



Gakushuin University
Museum of History

Museum Letter No.13

発行日 ● 平成22年(2010)5月20日

もくじ

ごあいさつ	1
史料館収蔵錦絵のご紹介	1
新聞錦絵	2
「箱館大戦争之図」	3
Information	4
・史料館講座のご案内	
・展覧会のご案内	
・ピラミッド校舎は今	

1. ごあいさつ

昨秋、館長となって認識を新たにしたのは、大学史料館の史料は文書だけではないということでした。絵画などの「もの」も意外に多く、中でもここに取り上げた新聞錦絵は、文字と絵が結びついた独特の史料といえます。

もう一つ気づいたことは、史料館は単に史料を保管する場ではなく、人が史料と出会い、史料を息づかせて語らせる場だということでした。当館で行う催しが、かくして甦った史料を皆様にお引き合わせする機会となるよう願っております。

(館長 高橋裕子)

2. 史料館収蔵錦絵のご紹介

第62回史料館講座「江戸のメディア 浮世絵—歌麿・北斎・広重など、海を渡った作品群」が6月14日(月)に行われます。また、史料館講座当日を含めた3日間、国際浮世絵学会主催、史料館共催の特別展示「市川亀治郎コレクション 役者絵展」を開催する予定です。

今号ではこの2つの企画にあわせ、史料館所蔵史料のうち、旧制歴史地理標本室資料と男爵大鳥圭介史料の中から錦絵をご紹介します。

旧制時代の学習院には「博物」と「歴史地理」の教科があり、それぞれに標本室を有していました。明治22年(1889)に歴史地理の教科が定められた後、いつの頃から標本室が存在したかははっきりしませんが、昭和5年(1930)に中等科教場(現在の西1号館)が建てられると、その3階の一角に歴史地理標本室が置かれることとなりました。考古資料やアイヌ、南国パラオの民族資料、工芸品、地球儀などの模型、標本類など多岐にわたる資料は、学習院の学生が博くこの世界を学ぶための標本教材として収集されました。島津製作所やドルメン教材研究所から購入されたもの、尾張徳川家の藩校に端を発した明倫博物館や当時学習院を管轄していた宮内省から移管されたものなど、さまざまな経路から集められたこれらの教材の中には、当時の学生の手により発掘された考古遺物も収められています。

新制学習院に移行の後、歴史地理標本室は閉鎖され、標本類は学習院大学図書館に引き継がれた後、その大部分は史料館に移管されました。ご紹介する新聞錦絵もそのよう

な来歴の史料の一つです。

旧制歴史地理標本資料は、現在、展示を通して一般の方にご覧いただく他、博物館学芸員資格取得のため史料館にやって来る学生の実習や、大学・高等科の授業でも活用されています。「箱館大戦争之図」を含む男爵大鳥圭介史料は現在整理中で、今後公開していく予定です。

(学芸員 吉廣さやか)



月岡芳年画「郵便報知新聞」開版挨拶 明治8年